



MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

Vol.28
2016.8



Contents

ごあいさつ	1
トピックス	2・3
インタビュー	4
大学の出来事	5・6
コラム	6



トピックス	海外短期研修生を受け入れました 連携協力協定病院ご紹介	2
シリーズ	教員インタビュー	4



大学マスコット
キャラクター
「みかんちゃん」



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

ごあいさつ

後援会会長ご挨拶

佐野 稔



平成28年度、三重県立看護大学後援会会長に就任致しました佐野 稔と申します。本年まで2年間理事を担当させていただきましたが、思慮深い中井会長の後を受け、大役を担うこととなりました。

他の役員様のご協力をいただきながら、後援会と大学との連携を図り、学生の願う修学や充実した大学生活を支援できるよう努めていきたいと思っています。

「夢」は見るものではなく『つかむもの』です。個々の学生の「夢」に寄り添いながら、学生たちが「夢」をつかむために、「後援会」のあるべき姿を会員皆様方とともに考えていきます。

今年度も引き続き、後援会活動に対し会員皆様方のご理解・ご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

平成 28 年度 後援会役員

役職	氏名	役職	氏名	
会 長	佐野 稔	理 事	森本 修	
副 会 長	中井 繁美	監 事	相澤 由美	
副 会 長	近藤 恭弘	監 事	南部 正臣	
理 事	川村 元秀			
理 事	大田 智佳子	顧 問	早川 和生	学長
理 事	奥村 康之	顧 問	三井 清輝	事務局長
理 事	酒井 由美	事 務 局 長	出谷 元一	事務局副局長
理 事	酒井 立子	事 務 局	奥野 進	教務学生課長
理 事	田中 好昭	事 務 局	梶 智恵	

新任のご挨拶 副理事長兼事務局長

三井 清輝



7月1日付で、副理事長兼事務局長に就任しました三井と申します。これまで、2年3か月、事務局の副局長として勤務しておりましたので、ご存じの方もいらっしゃると思います。引き続きよろしくお願い致します。

現在、本学を取巻く状況は大きく変化をしております。全国的に18歳人口は減少を続けている反面、看護系学科を擁する大学は、1991年の11校から250校へと激増しており、大学が競争する時代を迎えています。このような状況のなか、本学は、平成26年度に文部科学省の大学教育再生加速プログラムの高大接続事業に公立大学として唯一採択され、現在、高校と大学の間の各種の連携事業（平成26年度～平成31年度）を展開しており、全国の大学のモデルとなる取組を行っております。

さらに、県内初の看護学部を擁する大学として設置された使命から、県民の皆様を対象とした公開講座や看護職でいらっしゃる皆さんの資質向上のための研修などにも力を入れております。

今後とも、県立の大学として、また三重県になくてはならない存在として、県民の皆さんや保健・医療・福祉関係の皆様にご支持いただく大学となるために、理事長兼学長のもと微力ですが全力を尽くしてまいりますので引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

最後に、学生の臨地実習に熱心に取り組んでいただいております関係者の皆様への感謝を申し上げまして挨拶とさせていただきます。

トピックス

海外短期研修生を受け入れました

平成13年度に締結されたタイ国マヒドン大学との間の交流協定に基づき、毎年マヒドン大学生及び本学学生を相互の大学で受け入れ、短期研修を行っています。また平成27年度には、新たに英国スコットランドのグラスゴー大学と交換留学協定を結び、平成28年度より相互の学生の受け入れを開始しました。

平成28年度は、6月6日から6月18日までの13日間、マヒドン大学から3名、グラスゴー大学から2名の学生を短期研修生として受け入れました。研修生5名は、本学での講義や県内8か所の施設での見学を通して、日本の看護及び保健医療について学び体験しました。また、本学学生とマヒドン大学生、そしてグラスゴー大学生と3大学合同でプレゼンテーションを行い、それぞれの国の医療・看護の現状や大学での学びについて比較しながら理解を深めました。

研修期間中は、本学の国際交流サークル主催の歓迎会や文化視察などを通して、学生間の親交も深まりました。本学の学生、研修生ともに、互いの文化を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする様子がみられました。



2大学合同での短期研修生受け入れは、初めての試みでしたが、本学の学生にとっても、また教職員にとっても異文化を感じる貴重な機会となりました。

連携協力協定病院ご紹介(三重県立総合医療センター)

当院は、四日市市日永地区の高台に位置し、屋上のヘリポートからは、市内を一望できるばかりか、お天気の良い日は、鈴鹿山系、海側には志摩地域の島々、遠くはセントレアまで見渡すことが出来る場所にあります。北勢地域を診療圏とし、高度・特殊医療、地域周産期センター、基幹災害拠点病院としての役割を担っています。

看護部では、気づき(feel)、対話(communication)、協働(collaboration)、笑顔(smile)を理念に掲げ、急性期病院であっても、小さな気づきをみんなで育て、看護の手で、「いのちとこころ」を護りながら、「看護を通してみんなが笑顔になってゆく」そんな看護部づくりを目指しております。

三重県立看護大学とは、平成26年7月に、連携協定を締結いたしました。県立看護大学からは、開学時より、臨地実習のフィールドとして活用して頂いており、昨年度は、臨地実習指導者の育成について、大学から先生に会議に参加して頂き、検討を進めてまいりました。1回生から毎年、卒業生が就職して頂いており、今では、卒業生が指導者の役割を担っております。

今後も、質の高い看護師の育成を通して、患者さんそして学生さんからも選ばれる病院・看護部をめざし、県立看護大学との連携を強化していきたいと思っております。



トピックス

…みかんだいオープンキャンパス2016…

平成28年7月30日（土）、みかんだいオープンキャンパスを開催しました。当日は、猛暑にも関わらず、約550名の方にお越しいただきました。今年度のオープンキャンパスでは、新たに「講義体験」、「未来面談」、「地域推薦入試問題の解説」の3つのプログラムをご用意しました。



「講義体験」では、参加者の方に大学の教員が行う大学の授業を体験していただいたり、「未来面談」では、参加した高校生が自分の進路への不安や悩み事などを、本学教職員に積極的に話したりしていました。また、今回初めて入試問題解説を開催したところ、約160名の方に参加いただき、真剣な眼差しで解説を聞き入っていました。



参加者からは、「授業の雰囲気が分かった」、「親身になってアドバイスをしてもらえてよかった」、「先輩方から、たくさん話を聞くことができ、進路決定の役に立った」、「みかんだいに入りたい気持ちが高まった」などの声が多く寄せられました。

参加者からは、「授業の雰囲気が分かった」、「親身になってアドバイスをしてもらえてよかった」、「先輩方から、たくさん話を聞くことができ、進路決定の役に立った」、「みかんだいに入りたい気持ちが高まった」などの声が多く寄せられました。



大学教育再生加速プログラム

…高校生のためのオープンクラス(授業公開)…

平成28年7月12日（火）から7月26日（火）まで、高校2、3年生を対象に「高校生のためのオープンクラス（授業公開）」を開催し、期間中を通して計52名の高校生の皆さんに参加いただきました。

オープンクラスとは、普段の大学の授業を公開し、大学生と一緒に90分の授業を受けていただくものです。

受講前のオリエンテーションでは、参加者の皆さんに、授業の内容だけでなく、授業の進み方など高校との違いや、授業中はもちろん、休み時間中の学生の様子などにも目を向け、新たな発見をしてくださいとお伝えしました。講義室に入ると、これから始まる授業を前に緊張した様子でしたが、高校の先輩から声をかけられ、入学後の学生生活や授業について生の声を聞く姿も見られました。

参加者の皆さんからは、「興味のある授業内容だったので、90分



「小児看護学概論」授業の様子

が短く感じられた」、「今日の経験で、受験がゴールではなくスタートなのだと思えることができた」などの感想をいただきました。大学での学びのほんの一部ではありますが、今回の受講を通して、大学で看護を学ぶことやめざしたい看護師像を明確にイメージできたことと思います。

このオープンクラスをきっかけに、自身の将来や進路について見つめ直し、自らの目標に向かって進んでほしいと願っています。



「看護学原論」授業の様子



「コミュニケーション論」授業の様子

インタビュー

教員インタビュー

脇坂 浩 准教授にお伺いしました。

Q. 先生のご専門は「成人看護学」ですが、どのような研究をされているのでしょうか。

A. 感染対策の研究をメインに行っています。

1980年代以降、MRSAやHIVの流行が世界中で問題になったことから、感染症対策が急務となりました。

その中で、看護職の立場から何ができるのか、という観点で研究をしています。具体的には、病院内で感染対策を実施するためのケア技術の開発や改善、そのケア技術を提供する対象となる患者さんの気持ちやニーズの把握、感染対策がうまく機能しなかった時の原因解明などになります。



Q. 具体的にはどのように研究を進められているのでしょうか。

A. 最初のうちは、病院の感染対策チームに所属し、共同研究を行いながら、様々な面から分析を行いました。感染対策は、患者さんや病室の雰囲気など、実際にベッドサイドに立たないと分からないことが多くあります。現場を自分で見て回るのが大変重要です。本学では、以前認定看護師教育課程感染管理を開講していたことから、その当時の修了生の方や私が主宰している感染管理看護研究会の会員の方とのネットワークを活かしながら、研究を進めることができています。

感染対策は、基本的に緊急時の対策を先行して考えることが大切ですが、感染が発生した時に、その原因を解明しなくては、対策の効果が分からないままに終わってしまいます。

それらを明らかにすることで、実際の現場のモチベーションも上がり、有効な対策として実践に移すことができると考えています。

Q. 今後はどのようなことに重点をおいて研究をされますか。

A. 感染対策は、病院だけでなく、地域と連携して行うことが重要と考えています。特に、高齢者介護施設は、高齢者の皆さんが実際に住んでいる空間で、免疫力も弱まっている方が多くいらっしゃいます。そのため病院とうまく連携して感染対策を整えることができれば、双方にとってメリットがあると考えています。例えばインフルエンザについて言えば、集団感染がどのような順序で起こったのか曖昧な部分があります。それを調査するのは、非常に労力がかかりますが、一つの施設で起こった集団感染について詳しく調査し、そのデータを積み重ねていくと、いずれ解明できると思っています。特に高齢者介護施設で集団感染が起こると、死亡するリスクも高くなることから、その原因を解明することが、大きな研究課題です。研究を進めることで、病院と地域が連携して感染対策に取り組むことの重要性を認識してもらいきっかけになればと思っています。



大学の出来事

第19回夢緑祭 (平成28年5月14日(土))

平成28年5月14日(土)に第19回夢緑祭を開催しました。昨年より1ヶ月早い日程だったのですが、前日、当日ともに良い天気にも恵まれ、晴天の中開催することができました。前日からの準備、当日の準備ともに、夢緑祭実行委員、機材関係者、学校関係者の方々の協力のおかげで無事にスタートすることができました。今年度は、昨年度より模擬店の数が4店舗増え、所狭しと、テントを広げていました。また、昨年同様、子どもたちであふ



れかえった学生ホールでのゲーム、暑い中来てくださったお客様の休憩の場となった食堂、そして夢緑祭を最大に盛り上げてくださったステージ出演者の方々など、皆さんの力により最高の学園祭を実施することができました！支えてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

(夢緑祭実行委員長 山本 健太)



ゆびた祭り (平成28年7月6日(水))

毎年恒例のゆびた祭りを、今年は平成28年7月6日(水)に開催しました。昨年度に続き今年度も天候にも恵まれて、地域の子もたちや多くの方が来てくださり、大盛況でした。

ゆびた祭りをより楽しんでいただけるよう、子ども向けのイベントとして、ストラックアウト、ボーリング、フーセンヨーヨー釣り、1円玉落とし、わなげ、折り紙・バルーンなどを企画しました。また夏祭り屋台をイメージした食べ物を提供し、祭りの雰囲気を楽しんでいただくために、唐揚げ、焼きそば、たこ焼き、ポテト、かき氷、わらび餅、ソフトクリーム、ジュースを取り扱いました。



来てくださった方々に楽しんでいただくことができ、また自分たちも楽しむことができました。ゆびた祭りがさらに私たちの仲を深めてくれたと感じています。

(ゆびた祭り担当 久世 晃生)



ようこそ先輩・就職説明会

大学の恒例行事となった「ようこそ先輩・就職説明会」を、平成28年度は5月10日(火)に本学で開催しました。

「ようこそ先輩」では、看護師・保健師・助産師としての経験が2～4年目となる卒業生4名と、臨床での経験を積んだ後、再び母校で学んでいる大学院生1名を招き、就職先の選定方法、国家試験対策、看護職としてのやりがい等について、体験を通したお話をしていただきました。1年生1名、2年生1名、3年生66名、4年生33名が参加し、アンケートでは「先輩方の体験談だからこそ“なるほど、すごい”と感じられて自分も頑張ろうと思えた・少し曖昧だったことが整理できた」など、多くの感想が寄せられました。



「就職説明会」には、約113名の3、4年生が参加しました。学生個々が興味あるブースを訪れ、三重県内の30の医療機関等の看護部長さんや教育担当看護師、就職した卒業生に積極的に質問をしたり、パンフレットや映像を用いた施設概要等の具体的な説明を受けることができました。



大学の出来事・コラム

平成28年度 第1回公開講座 (一般社団法人日本人間工学会共催事業)

平成28年6月25日(土)に一般社団法人日本人間工学会との共催で、平成28年度第1回公開講座を開催しました。

「看護のものづくりと人間工学」と題して、筑波大学医学医療系・教授・保健医療学域長 川口 孝泰先生にご講演いただき、情報通信技術を用いた遠隔看護や看護用品・機器の検証や設計などについて、川口先生ご自身の「看護学の中に科学技術を取り入れたい」という思いを交えながらお話しいただきました。

当日は、日本人間工学会の会員も含め450名を超える方にご参加いただき、盛況のうちに講座を終えることができました。



健康コラム



成人看護学
長谷川 智之 講師



「救急車 必要なのは どんときき？」

救急車をタクシー代わりと勘違いしていませんか？救急車は限りある資源なので、適正に使用しなければ、本当に救急医療が必要な方が救われません。総務省消防庁の統計によると、平成25年度における救急車による搬送人員534万117人のうち、死亡、重症及び中等症の傷病者の割合は全体の49.8%、入院加療を必要としない軽症傷病者の割合は50.2%となっており、救急搬送された半分の方は、救急車を利用する必要性がなかったといえます。その一例として、「紙で指先を切った」や「病院に行く手段がない」などがあります。では、どのような際に救急要請をすべきかを次に示します。①意識がおかしい、②呼吸がおかしい、③急で激しい症状(痛みなど)がある、④その他いつもと様子が違うという点がどれか一つでも認められた場合はためらわず救急要請すべきです。もし救急要請すべきか迷った場合は、電話相談(医療ネットみえなど)で確認してください。真に救急を要する人へ救急車が出動するためには、我々の現状の認識を変えなければならないと思います。

「寄付金事業について」

平成28年3月、本学大学院棟及び地域交流センター前に庭園を整備しました。村本淳子前学長から、ご退職にともない寄付金をいただき、色とりどりの花々やレモンの木を植え、大学院棟の玄関がとても華やかになりました。平成28年4月12日(火)には、早川学長から感謝状が贈呈され、記念撮影を行いました。あたたかいご支援に、教職員一同御礼申し上げます。



事務局からのお知らせ

平成28年7月1日付けで、財務監兼総務課長を務めておりました出谷元一が事務局副局長兼総務課長に就任いたしました。また、同日付けで、新たに職員1名が総務課へ転入いたしました。

総務課 主査 大島 秀樹



7月から総務課に赴任しました。皆さんのお役に立てるよう努めてまいります。

どうぞよろしくお願いたします。

第2回 公開講座のお知らせ

三重県・公益財団法人三重県体育協会
公立大学法人三重県立看護大学 地域交流センター共催

開催日時 平成28年10月29日(土) 12時45分～14時20分

場 所 三重県立看護大学

プログラム 講演「スポーツドクターから伝えたい女性のからだの基礎知識」

講師 高尾 美穂 先生(産婦人科専門医・医学博士・婦人科スポーツドクター)

参加は無料です。参加を希望される方は、三重県立看護大学企画広報課まで、電話、FAX、E-mailのいずれかでお申し込みください。

※定員(400名)に達した場合、お申し込みを締め切らせていただく場合がございます。

※当日の参加受付は、定員に余裕がある場合に行います。

＜お問い合わせ・お申し込み先＞

公立大学法人三重県立看護大学 企画広報課

TEL: 059-233-5669 (企画広報課直通)

FAX: 059-233-5666

E-mail: kikaku@mcn.ac.jp



本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大(みかんだい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

学章の由来



看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。



公立大学法人
三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL 059-233-5600 (代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



広告

求人案内 看護師募集

- 身 分** 伊賀市職員(地方公務員)
- 手 当** 看護師確保手当、病院勤務手当、夜間看護手当、通勤手当、住居手当、地域手当 など
- 昇 給** 年1回 賞与: 年2回 4.20ヶ月
- 勤務形態** 変則3交替(一般病棟)、2交替(療養病棟)
- 休 暇** 年次有給休暇、特別休暇(夏季休暇、結婚休暇、子の看護休暇など)、育児休業、部分休業 など

中途採用・パート採用も実施しています。
病院見学、随時受付中。

まずは下記までお気軽にご連絡ください。



伊賀市立上野総合市民病院

伊賀市四十九町831番地 担当:看護部
TEL: 0595-24-1111 FAX: 0595-24-1565
H P : <http://www.cgh-iga.jp/>
E-mail: kango@iga-med.jp



広告

私たちがめざすのは
いのちとこころを救う看護です



病院見学は、随時受け付けています



地方独立行政法人

三重県立総合医療センター 看護部

四日市市日永 5450-132 TEL 059-345-2321 (代表)
e-mail: sogohos@mie-gmc.jp <http://www.mie-gmc.jp>